

日本心エコー図学会教育委員会
地方における小規模講習会に関する報告

2015年11月25日

教育委員会では、若手医師への心エコー図学の普及・啓蒙に努めるため、大都市圏以外での小規模講習会を行っており、三重県で第2回目のセミナーを催したので報告する。

1) 概要は以下の通り。

セミナー名：三重大学病院臨床研修・キャリア支援センター PRESENTS 東海若手医師キャリア支援セミナー「スペシャリストから学ぶ心エコー図法！」

共催：MMC卒後臨床研修センター、

三重大学医学部附属病院 臨床研修・キャリア支援センター、日本心エコー図学会
後援：東海若手医師キャリア支援プログラム

企画：日本心エコー図学会 教育委員会

事務担当：三重大学医学部附属病院 臨床研修・キャリア支援センター

日時：平成27年10月17日（土曜日） 9:30～16:00

場所：三重大学医学部附属病院

対象：三重県内を中心とした東海地区の初期研修医（後期研修医も可）

参加者定員：定員35名に対し、26名の申込みがあり、当日参加24名（初期研修医 1年目 16名、2年目6名、専攻医2名）

内容：初心者を対象とした心エコー図法の講義とハンズオン（シミュレーターも含む）

超音波装置：通常装置7台、シミュレーター1台

2) プログラム（抄録集参照）

2セッションにわけ、午前は基本的な内容として、20分程度の講義とそれに引き続きハンズオンを行った。午後のセッションは、より臨床的な内容とし、講義とハンズオンにより、壁運動異常の読み方や弁膜症の理解、救急外来での応用など、更に理解を深めた。またシミュレーターを使用したハンズオンも行った。全体としてハンズオンの時間を長くすることで、実践力を高めるような指導方法を採用した。

開会の挨拶 櫻井洋至（三重大学医学部附属病院 臨床研修・キャリア支援センター）

セッション1（9:40～12:40）心エコー図法の基本を識る 座長 土肥薫（三重大学 循環器内科）

講義20分 心エコー図の基本断面の成り立ち 演者 別當勝紀（伊勢赤十字病院 臨床検査課）

実習40分 基本断面の描出と計測

講義20分 ドプラ法の基本 演者 杉本邦彦（藤田保健衛生大学病院 臨床検査部 超音波センター）

実習40分 カラー描出、血流速度計測法

講義20分 血流・組織ドプラ法を用いて血行動態を評価する 演者 杉浦英美喜（三重大学 循環器内科）

実習40分 ドプラ指標の描出と評価

休憩1時間

セッション2 (13:40~15:50) 臨床現場で心エコー図法を使う 座長 杉浦英美喜 (三重大学 循環器内科)

講義20分 壁運動異常をよむ 演者 大沼秀知 (三重大学 中央検査部)

講義20分 弁膜症評価の基本と感染性心内膜炎の評価法 演者 田辺正樹 (三重大学 循環器内科)

講義20分 救急外来での使いこなし方 演者 土肥薫 (三重大学 循環器内科)

実習30分 シミュレーターによる救急患者の評価

実習40分 救急外来を意識した実践

閉会の辞

土肥薫 (三重大学医学部附属病院 臨床研修・キャリア支援センター)

3) 指導者について

合計8名で指導を行った。内訳は教育委員会から1名 (三重県)、東海地区の心エコー図学会専門技師2名 (三重県1名、愛知県1名)、三重県内の循環器専門医 (超音波専門医) 2名、三重県内の超音波検査士3名であった。ハンズオンは7グループで、1グループあたり参加者4名に対して、指導者1名の体制とした。

4) 参加者からのアンケート結果について (詳細は別紙参照)

参加者は初期研修医 (1年次: 16名、2年次: 6名) がほとんどを占めた。心エコー図の経験がない、あるいはほとんどない医師が7割を占めたが、講義の内容およびハンズオンの内容は「ちょうど良い」という回答がそれぞれ80%以上、95%以上を占めた。講義内容が「難しい」や「とても難しい」という回答は、約15%程度であり、昨年よりも講義内容の難易度が適正化したと思われた。

ハンズオンの時間 (1人あたり10分x4回) は、ちょうど良いという回答が2/3を占め、昨年よりも満足度は増したが、ハンズオンの時間が「短い」という回答も依然として30%あり、今後の改善点と考えられた。

セミナー全体の満足度は全員が「良かった、とても良かった」と回答し、今後同様のセミナーに参加したいかという問いに対して「参加したい、是非参加したい」が96%であり、昨年よりも増加した。

5) 参加者からの感想

少人数制で質問もしやすくてよかったです。

シミュレーターでイメージしながらエコーをあてるのはすごいと思いました。

普段なかなか指導医の先生とエコーをみる機会がないので、とても貴重でした。

とても満足しました!!

救急外来で使えるエコー手技をもっと濃くしてほしいです。

6) まとめ

若手医師に心エコー図学に興味を持たせるため、三重県で第2回目のセミナーを催した。

地域の既存組織（MMC卒後臨床研修センター、三重大学医学部附属病院 臨床研修・キャリア支援センター）と連携をとることにより、円滑な運営が可能であった。セミナーの内容としては、初期研修医のレベルにちょうど良い講義内容であった。ハンズオンは一日を通してどんどん上達していったことを参加者・指導者ともに実感した。実技時間を長くしたことで満足度が上がった。シミュレーターの活用も有効であった。若手医師に心エコー図学へ興味を持たせ、臨床レベルのアップを図ることに少なからず貢献できたと考えられた。応募に対し、募集人数がやや少なかったため、今後は周知の方法や時期について検討が必要であるが、結果的に受講者にとっては充実した研修を受けてもらえた。今後も、各地域での円滑な開催のためには、地域の組織との連携が必要と感じる。

（文責：三重大学 循環器内科 土肥 薫）

三重大学病院臨床研修・キャリア支援センター PRESENTS
東海若手医師キャリア支援セミナー
「スペシャリストから学ぶ心エコー図法！」

共催：MMC卒後臨床研修センター

三重大学医学部附属病院 臨床研修・キャリア支援センター
日本心エコー図学会

後援：東海若手医師キャリア支援プログラム

日時：平成27年10月17日（土曜日） 9:30～16:00

場所：三重大学医学部附属病院 スキルズラボ

